

別寒辺牛

べかんべうし

2008年3月発行
NO.16

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより
水鳥観察館だより「べかんべうし」は、厚岸の自然環境、動植物などの旬の情報を提供しております

2008年



水鳥観察館

平成20年に入り、水鳥観察館も平成7年4月12日の開館以来約13年の月日が経ちました。平成5年6月10日には厚岸湖・別寒辺牛湿原がラムサール条約の登録湿地となり、その登録面積は、平成17年に拡張され現在は5,277haになっています。

ラムサール条約とは・・・「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」水辺環境を保全しなければ、人間の生産活動も成り立たない、ちょっとむずかしい言葉で言うところ「持続可能性のある発展」を目標に、湿地の保全と賢明な利用（ワイズユース）を進めるという条約です。この条約は、厚岸の町民一人一人の協力無しではとてもとても達成できるものではなく、みんなが協力し合うことによって、厚岸町の豊かな湿原、たくさんの昆虫、魚類、水生動物等々...が生息することができるのです。

厚岸湖・別寒辺牛湿原 3月の鳥情報

2月に行った野鳥観察会では、海ワシ類の一斉調査も一緒に行い、その結果も出ています（詳しい内容は次ページへ！）ハクチョウに関しては、12月のピーク時に約5,300羽が確認されて以来、現在厚岸湖で越冬している数は、約1,400羽！

水鳥観察館前に広がる別寒辺牛湿原の川もまだまだ厚い氷に閉ざされ、他の野鳥を観察するには・・・もう少し夜間の冷え込みが和らぎ、日中の柔らかい日差しが続き、氷を静かに押し出してからとなります。

そうすると間もなく観察館前にもハクチョウやカモたちなどの姿を見ることができ、春の訪れを知らせてくれます。今は観察館の上空を旋回したり、厚岸湖の氷上にいるオジロワシやオオワシを確認する事ができますが、オオワシに関しては期間限定なので是非見に来て下さい！



～おまけ～

別寒辺牛湿原に、ほぼ毎日のように鹿の群が見られます！その数は100頭近くになることも・・・



～海ワシ類一斉調査～

海ワシ類とは・・・厚岸では！！ オオワシ・オジロワシの事です。

2月17日に北海道内で海ワシ類の一斉調査が行われました。この日は水鳥観察館主催の野鳥観察会も兼ねて調査を行い、御供山から厚岸湖の氷上、奔渡1～7丁目の山の斜面でワシの観察&調査を行いました。

参加者にも調査のお手伝いをして頂き、御供山から、自分たちの目線で飛翔するワシたちをこれでもか～！ってほど見ることができ、こんなにもの海ワシ類が厚岸にいることにさぞやビックリしたことでしょう。

とはいえ、今年は昨年と同じ時期に比べると、オオワシ・オジロワシどちらとも数が少ないのです。

2月8日の調査では、全体でも24羽という前年度比7%ほどの数（ちなみに去年の2月8日には337羽を記録）で、いったいどこに行ってしまったのだろうと心配になっていましたが、2月15日には135羽とだいぶ増えてきました。そして2月17日には149羽と今期最大数を記録。それでも少ないですが...

これは以下にも書いてありますが、氷下網漁の雑魚（ギンボヤやカジカなど）が、なぜか今年は非常に少なく、おこぼれにあやかれないからのようです。



オジロワシ(幼鳥)

さて、ここから一般的な海ワシのお話し...

○海ワシとは？

生活の場を海に強く依存しているワシ類で、日本、特に北海道では、オオワシ・オジロワシのことを指します。双方とも英語ではSea-eagleといい、まさに海ワシなのです。（ちなみにラテン語の学名(属名)*Haliaeetus*もそういう意味なのです）

○オオワシ Steller's Sea-eagle (国の天然記念物、絶滅危惧種)

主に極東ロシア（サハリン、マガダン、カムチャツカなど）で繁殖し、冬は北海道などですごします。日本では繁殖しません。

全世界でも、この極東ロシアでしか繁殖しておらず、およそ5,000～6,000羽ほどしかいない、絶滅危惧種の1種です。

そのうち、2,000～3,000羽が冬を越すために主に北海道にやってきており、知床半島、根室の風蓮湖周辺と共に、厚岸湖周辺も一大越冬地になっています。多い年で、オジロワシと合わせて2月頃に350羽を超えることがあります。

○オジロワシ White-tailed Sea-eagle (国の天然記念物、絶滅危惧種)

極東ロシアからヨーロッパまで広く繁殖し、日本、特に北海道では少数が留鳥（一年中いる鳥）として繁殖しています。厚岸でも、最低3～4つがいが繁殖していると推定されています。

冬は、北海道にすむ留鳥と主に極東ロシアで繁殖して、北海道に渡ってくる冬鳥のオジロワシが両方混ざって冬を越しています。

全世界では、およそ50,000羽ほどいるとされ、絶滅危惧種の1種ですがオオワシほどではありません。

オオワシ(成鳥)

○オオワシとオジロワシの関係

厚岸湖を含め、北海道ではオオワシの方がはるかに多く見ることができ、厚岸湖ではオオワシ：オジロワシ≒8：2、9：1くらいです。

ですが、オオワシの方が世界的に見るとはるかに少ない、絶滅にひんした種類なのです。

○海ワシ類の餌

両種類とも、主な餌は魚類、カモ類、カモメ類、エソシカなどの動物の死体などです。流氷周辺で生活しているものも多く、魚類がたくさんいるところにワシ有り！といった感じでしょうか？

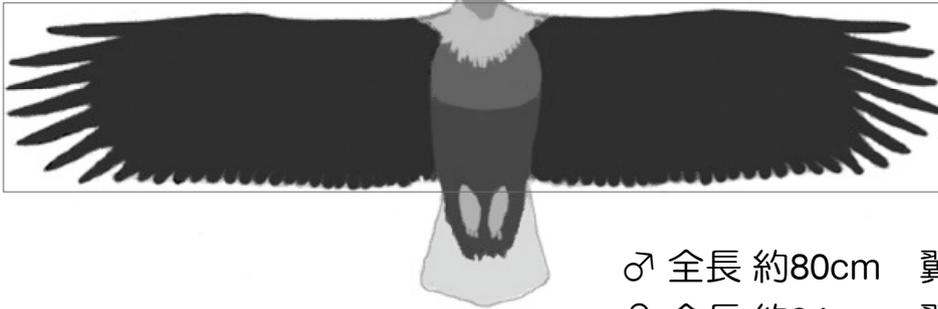
厚岸では、氷下待ち網漁のおこぼれにあやかっており、昔の羅臼のスケソウ漁最盛期時代のおこぼれ狙いと同様、人間生活にかなり依存しているところが何とも難しい海ワシたちの現状なのです。



どっちがオオワシ・オジロワシ？

海ワシ2種を下から見た成鳥の絵です。
どちらがオオワシ・オジロワシでしょうか？

くちばしは、うす黄色



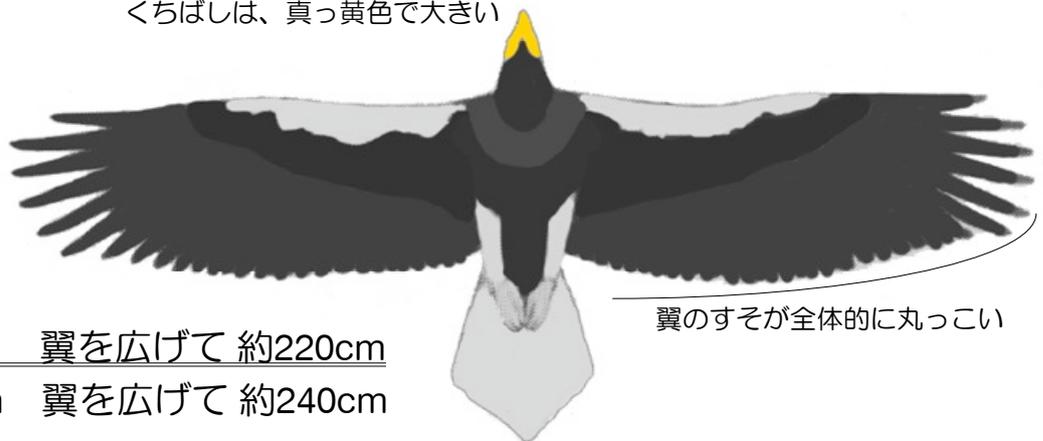
翼は、しっかり伸ばしていると
長方形に近い

尾羽は扇形で白色

♂ 全長 約80cm 翼を広げて 約180cm

♀ 全長 約94cm 翼を広げて 約220cm

くちばしは、真っ黄色で大きい



翼のすそが全体的に丸っこい

♂ 全長 約88cm 翼を広げて 約220cm

♀ 全長 約100cm 翼を広げて 約240cm

尾羽はひし形で白くて長い

答え：上がオジロワシ、下がオオワシです！

ということで、尾羽が白いからオジロワシ、というわけではないのです！

白い部分がより大きくて、ひし形をしているのがオオワシなのです。ついでに肩に白い部分があり、足のももに相当する部分も白く、またおでこにも白い模様があります。（左のオオワシの写真参照）

それに対してオジロワシは、尾羽が白いのですが、他の体は全体的にグレー系の色をしています。また、年をとればとるほど頭部が乳白色に変化していきます。

またワシの仲間に共通することは、メスの方が大きいことです。困ったことに!?上の図で下線を引いているところ、オジロワシのメスとオオワシのオスが、だいたい同じくらいの大きさなのです。

成鳥のこれらワシたちでしたらすぐに判別が付くのですが、幼鳥には図のようなハッキリした白い部分がありません。なので識別には少し慣れが必要です。

外見上わかりやすい点の一つとして、オジロワシの幼鳥のくちばしは、先が黒いこと、くらいかなあ...ああ悩ましい...（左のオジロワシ幼鳥写真参照）

2月の野鳥観察会は大にぎわい～

2月17日に行われた野鳥観察会には、町内外を合わせて12人の方々が参加され、その内半数の人が初めての参加となりました。

寒さの厳しい季節の野鳥観察会ですが、この日は天候にも恵まれ？と言っても観察会の場所は御供山！展望台での温度は+0.5度でしたが、風が肌をさすように冷たいにもかかわらず、参加者の皆さんは「寒い！」という声もあげず、御供山から見渡せる町内や厚岸湖の風景をバックに、今の季節しか確認することが出来ないオオハクチョウやオオワシに見入っていました。

御供山から下りて次はチカラコタンへと観察場所を変えましたが、こちらではかなり至近距離からオオワシとオジロワシの成鳥が確認できその迫力に参加者も感動をしていました。

2月17日には残念ながら見られませんでした。この時期厚岸湖内では、ゴマフアザラシがよく見られます。19日には10頭が見られ、これもまた皆さんの驚きのネタになったのであります。

厚岸湖の真ん中あたりの氷の境目にいるゴマフアザラシ

また2月19日には、高知小学校と教育大釧路校の生徒さんらがワシや水鳥観察を行い、同じく氷上・上空や、樹上にたくさんいるワシ類や、水面のオオハクチョウ、ちょっと残酷なようで、でも自然の営みである狩りの様子などもみられ、野生生物の厳しさと生き物の豊富さに感動していました。

3月の野鳥観察会！！

タンチョウ、オジロワシ、ハクチョウを観察しよう！

鶴居や阿寒から、タンチョウが繁殖地の湿原に帰ってくる季節です。その他南下していたカモたちも帰って来始め、水辺がにぎわってきます。

これら水鳥を観察し、引き続きタンチョウ、ハクチョウ紙飛行機を作ります。

日時：3月23日（日）10：00～12：00

会場：水鳥観察館

定員：20人

集合場所：水鳥観察館

～申込み・問い合わせ～

水鳥観察館 TEL: 52-5988



館内だよ～

あっけし みずどり かんさつかん
厚岸水鳥観察館

☎088-1140

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ6番地

TEL (0153)52-5988 FAX (0153)53-2121

URL: <http://www.marimo.or.jp/AWOC/>